

新コンテンツ「あなたの必要保障額プラン（WEB版）」スタート！ ～4つのリスクに対する必要保障額を簡単にシミュレーション～

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 松尾 憲治）は、2012年9月1日から、お客さまへの情報提供の一環として、生命保険情報サイト「保険がわかるサイト」およびご契約者専用WEBサイト「MYほけんページ」のメニューに「あなたの必要保障額プラン（WEB版）」を追加します。

本コンテンツは、当社の保険契約の有無にかかわらず、どなたでも無料でご利用できる情報サービスで、お客さまの性別、生年月日、職業、家族構成等の基本情報を入力すると、4つのリスク（万一、障がい、老後、重度疾病）に対する必要保障額（＝「必要な生活資金」から「社会保障制度からの支給額」を差し引いた金額）を算出し、一覧で確認いただけます。

当社は、お客さまが納得して生命保険にご加入いただけるよう、社会保障制度をご理解いただいたうえで、ご要望に沿ったプランを提案するコンサルティング活動（＝ビフォアサービス）を展開しています。お客さまのライフスタイルに応じたご提案を通じて、より多くの方に満足していただけるよう努力するとともに、コミュニケーションツールとしてWEBサイト機能の充実を図り、さらなるお客さまサービスの向上に努めてまいります。

<主な特長>

お客さま自身で 簡単入力	性別、生年月日、職業、家族構成等の基本情報だけで必要保障額の概算を確認できます。また、税込年収や生活費を入力することで、より精緻な試算もできます。
4つのリスクが すぐわかる	万一、障がい、老後、重度疾病の「4つのリスク」に対するそれぞれの必要保障額を一覧で確認できます。 「4つのリスク」とは… <ul style="list-style-type: none"> ① 万一への備え → 万一のときの残されたご家族の生活費 ② 障がいへの備え → 障がい・要介護状態のときの生活費・療養費 ③ 老後への備え → 老後の生活費 ④ 重度疾病への備え → 病気・ケガの医療費
見やすく わかりやすい	「必要な生活資金」－「社会保障制度からの支給額」＝「必要な保障額」の順で表示します。必要な保障額が一目でわかり、準備すべき必要保障額の内訳や年間収支推移イメージ等も確認できます。

【結果一覧の画面】

あなたの必要保障額プラン（WEB版）の結果一覧
 ※「4つのリスクへの備え」についてはこちらをご参照ください

	A 必要な生活資金	B 社会保障制度からの支給額	=	C 必要な保障額 <small>(万円以下の場合は「.万円」と表記します)</small>
万一への備え	(A) 残されたご家族に必要な資金 13,331万円	(B) 遺族年金等の収入金額 7,704万円	=	(C) 準備すべき必要な保障額 配偶者さまが平均寿命に達するまで、準備したときの金額です 5,627万円
障がいへの備え	(A) 生活していくために必要な資金 年額 593万円	(B) 障害年金等の収入金額 年額 226万円	=	(C) 準備すべき必要な保障額 配偶者さまの収入が、全くなくなった場合の必要生活資金の金額です 年額 367万円 (月額 30.6万円)
老後への備え	(A) 老後に必要な生活資金 年額 439万円	(B) 老齢年金の収入金額 年額 254万円	=	(C) 準備すべき必要な資金 年額 185万円 (月額 15.4万円)
重度疾病への備え	口肺がん 12日間入院・手術後、22ヵ月間通院 その後再発し6日間入院(重粒子線治療)後、5年間通院 (A) 入院中の治療費 647,790円 (215,931点) (B) 先進医療の技術に係る費用 3,140,000円 (C) 治療費以外の費用 88,272円 (D) 収入への影響・退院後の医療費(自己負担分) 2,228,484円 高額医療費払戻し 471,337円 正味自己負担額 176,453円 高額医療費払戻し 153,874円 正味自己負担額 2,074,610円 <small>入院中の治療費は、入院日数分の診療報酬点数の合計です</small>			

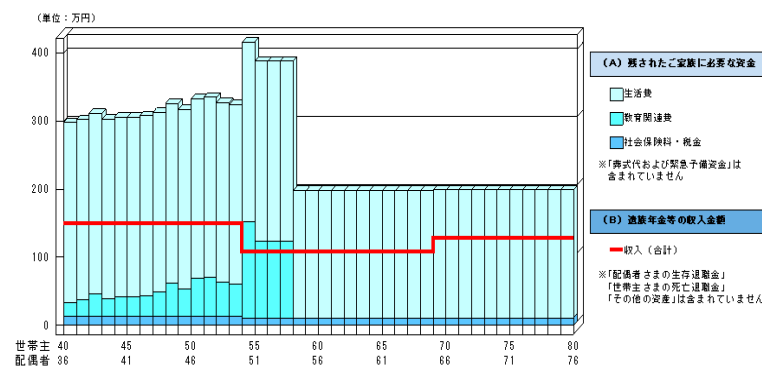
4つのリスクが一覧で確認できます

【万一への備えの画面】

万一への備え	障がいへの備え	老後への備え	重度疾病への備え
万一のことがあった場合に備えて、準備すべき必要な保障額を確認しましょう			
(A) 残されたご家族に必要な資金 13,331万円	(B) 遺族年金等の収入金額 7,704万円	=	(C) 準備すべき必要な保障額 配偶者さまが平均寿命に達するまで、準備したときの金額です 5,627万円
内訳			
(A) 残されたご家族に必要な資金 ①残されたご家族の生活費 ア) 末のお子さまが独立されるまでの生活費 4,748万円 (現在の7割と見積もります) イ) 末のお子さまが独立後の生活費 6,408万円 (現在の6割と見積もります) ②お子さまの教育関連費 必要教育費合計 1,015万円 第一子の必要教育費 1,015万円 第二子の必要教育費 -万円 第三子の必要教育費 -万円 ③その他の費用 社会保険料・税金 585万円 葬式代および緊急予備資金 577万円 必要資金 [(A)ア+イ]+(B)+③ 13,331万円	(B) 遺族年金等の収入金額 ①遺族年金等の受給合計 遺族年金等の受給合計 6,662万円 ア) 遺族基礎年金 1,074万円 イ) 子の加算 309万円 ウ) 遺族厚生(共済)年金 2,652万円 エ) 中高齢寡婦加算 863万円 オ) 老齢基礎年金 1,764万円 カ) 寡婦年金 -万円 ②配偶者さまの収入 年間 -万円 × -年 = (合計) -万円 ③配偶者さまの生存退職金 (退職金見込額) -万円 ④世帯主さまの死亡退職金 (退職金見込額) 299万円 ⑤その他の資産 (金融資産控除) 743万円 収入等総額 (①+②+③+④+⑤) 7,704万円	年間収支推移イメージ	

年間収支推移イメージ (万一への備え)

以下のグラフは、本シミュレーション金額(A)(B)のうち、主な金額の合計額に基づき、世帯主さまに万一のことがあった場合の毎年の収入・支出(それぞれ1,000万円を上限として記載)の推移イメージを表示したものです



準備すべき必要な保障額やその内訳、ならびに年間収支推移イメージが確認できます